

日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修レポート
グアナファト研修

2025年3月 石松桜杏

Mis días en México

2014 年から広島県とグアナファト州は友好提携を結び、以来両地域のさまざまな分野で交流が活発に行われています。今回は、その一環として、広島県派遣生である私たちがグアナファト州への理解を深め、現地の方々との交流をさらに促進するために、3 月 5 日から 7 日の 3 日間を通じて行われた研修の内容と、研修を通じて私が感じたことについてお伝えしたいと思います。

1. 研修 1 日目

1 日目は、朝 6 時 30 分にメキシコシティ発のバスに乗り、約 6 時間かけてグアナファトに到着しました。その後、広島の日墨生が代々お世話になっているコーディネーターの土田さんと合流しました。

最初に、ミイラ博物館を訪れました。ここには、1800 年代末から 1900 年代にかけての比較的新しいミイラが展示されているそうです。ミイラを見るのは今回が初めてでしたが、老若男女さまざまな人々のミイラが展示されており、当時の生活や死生観について考えさせられました。衣服を着たまま保存されているものも多く、非常に興味深かったです。

昼食のあと、グアナファト大学の日本語学科の学生たちと交流を行いました。日本語を学び始めたばかりの学生も多かったのですが、スペイン語と日本語を使いながら自己紹介をしました。今年の交流会では特別に実際の講義にも参加させていただきました。講義内容は私たちのために用意されたもので、プレゼンテーション形式で自分が考えたツアーの内容(場所、日数、金額、宿泊場所など)を企画して発表するというものでした。学生たちは、漢字を使ったパワーポイントを作成し、流暢な日本語で発表していたので、本当に驚きました。

その後、ピピラの丘に行きました。10 月にグアナファトを観光した際は昼に訪れましたが、今回は日が沈む 19 時頃に行き、夜景を楽しむことができました。圧巻の景色で、何度見ても飽きることがありません。



グアナファト大学の日本語学科のみなさんと

2. 研修 2 日目

2 日目は、前日とは別の日本語学科の学生の方々とともに、マツダメキシコ工場を見学しました。メキシコ工場では、現地の方々が生き生きと働ける職場環境づくりに力を入れているそうです。従業員の男女比はおよそ 7:3 で、製造業としては比較的高い女性比率となっており、女性が働きやすいようさまざまな工夫がなされており、ダイバーシティや働き方への意識の高さを感じました。また、国によって人気の色や車種が異なるとのことで、メキシコ工場では市場のニーズに応じて 5 種類の車両を生産しているとのことでした。実際に自動車完成までの工程を見せていただいたことで、1 台の車が完成するまでに多くの人が携わっていることを改めて実感しました。広島で生まれ育った私にとって、今回の工場見学は特別な体験となりました。広島を代表する企業が、遠く離れたメキシコの地でも信頼と実績を着実に築きながら、事業を堅実に発展させている姿を目の当たりにし、非常に誇らしい気持ちになりました。

その後、グアナファト日本人学校を訪れました。日本人学校を訪れるのは今回が初めてでしたが、図書館や理科室、音楽室などが整備されており、私が通っていた小学校とほとんど同じ

ようなつくりでした。また、iPad を活用した授業も行われており、教育環境の充実ぶりを感じました。

メキシコの日本人学校ならではの特色として、スペイン語による授業も行われているそうで、とても楽しそうな印象を受けました。さらに、学年によって生徒数にばらつきがあり、2 人だけの学年もあれば、十数人いる学年もあるとのこと。全体の生徒数が少ないことから、学年間の交流が盛んで、生徒同士がとても仲良くしている様子が印象的でした。

交通手段などの事情によりクラブ活動は実施されておらず、多くの生徒は校外で習い事をしているそうです。こうした点も、日本人学校ならではの特徴だと感じました。

その後は、日本語学科の学生とともにグアナフアト大学を見学したり、街の雑貨屋さんを訪れたりして、とても充実した時間を過ごすことができました。



3. 研修 3 日目

3 日目は、在レオン日本国総領事館を表敬訪問するため、レオン市へ向かいました。

青山総領事とは、メキシコにおける日本企業の活動や、日墨間の人的交流について幅広くお話を伺うことができ、大変貴重な時間となりました。現在、日系人コミュニティの関係促進にも積極的に取り組んでおられるとのことで、私たちが訪問した日にも、現地の日系人の方々との交

流会が開催されていました。

時間の都合もあり、日系人コミュニティの皆さまにはご挨拶程度しかお話しすることができませんでしたが、温かく迎えてくださり、とても嬉しく感じました。こうした継続的な取り組みを通じて、日本とメキシコを結ぶ架け橋としての大切な役割を果たされていることを実感しました。



終わりに

今回の研修を通じて、多くの貴重な学びと交流の機会をいただきました。ご多忙の中、私たちの受け入れにご尽力くださった皆さまに、心より感謝申し上げます。

どの場面においても、皆さまのあたたかいご配慮とご支援に支えられ、有意義な時間を過ごすことができました。

私も、広島とグアナフアトをつなぐ架け橋となる存在になれるよう、残りの期間で自分ができることをしたいと改めて強く感じました。